

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：32413

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K03045

研究課題名(和文) 若年未婚女性における仕事・結婚・子どもの価値とライフコース選択

研究課題名(英文) Values of Work, Marriage, and Children and Life Course Choices Among Young Unmarried Women

研究代表者

永久 ひさ子 (Nagahisa, Hisako)

学校法人文京学院 文京学院大学・人間学部・教授

研究者番号：90297052

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：若年未婚女性のライフコース選択と仕事・結婚・子どもの価値の関連を検討した。面接調査の結果、仕事や趣味を含めた自由の価値と、性別役割としての子育ての価値、結婚がもたらす幸せと大変さという自分にとっての結婚の価値が、ライフコース選択である結婚意欲と関わることを示された。3つの価値を含めた結婚イメージ尺度を作成し、それを左右する要因を検討した結果、結婚イメージは自己スキーマとしての文化的自己観と関連し、それが結婚意欲に影響していた。個人主義的ライフスタイルの未婚女性にとって、相互協調的自己観優勢の結婚生活は、幸せより自由の制約イメージが強いため、結婚意欲が低下するものと考察された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

家族形成に関する心理学的研究は極めて少ない。家族形成への社会的圧力が減り個人の人生の選択肢となった今日、その動機づけに関する研究は重要性を増している。未婚化や少子化の要因として経済的問題がクローズアップされる中で、結婚意欲の個人差を明らかにし、その個人差と結婚イメージという心理的要因との関連を示した点に重要な意義がある。また自己スキーマとしての相互独立的自己観が幸せな生活イメージを左右することを示した。個人主義的なライフスタイルが広がる一方で、今も家庭の中では相互協調性に基づく関係性が優勢である。この文化のズレが、自由の制約イメージを強め結婚意欲低下の要因となることを指摘した。

研究成果の概要(英文)：We examined the life plans of young unmarried women and their relationship with the values of work, marriage, and children. The results of the interview survey indicated that the value of freedom, including work and hobbies, the value of child-rearing as a gender role, and the value of marriage in terms of the happiness and challenges it brings, were related to their willingness to marry, which is a part of their life plans. We created a marriage image scale that included these three values and examined the factors influencing it. The results showed that the marriage image was related to cultural self-construal as a self-schema, which in turn affected their life plans regarding marriage. For unmarried women with an individualistic lifestyle, it was considered that a marriage life dominated by an interdependent self-construal would lead to a lower willingness to marry due to the strong image of freedom constraints rather than happiness, impacting their overall life plans.

研究分野：発達心理学

キーワード：未婚化 結婚イメージ 家族形成 文化的自己観 結婚意欲 自由の制約 幸せ 未婚女性

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

## 1 研究開始当初の背景

(1) 日本では少子化が急激に進んでいる。若年世代の非正規雇用の増加など、経済的脆弱さに要因を求める議論が多く、心理学的研究はほとんど見られない状況であった。

晩婚化や未婚化と女性の仕事は密接な関連があると考えられる。女性の高学歴化や社会進出が進み、女性も仕事での経済的自立と自己実現が可能になった。しかし結婚生活では、従来と同じく、性別役割期待が期待される。さらに幼い子どもの子育てでは、今も、母親が重要とされるなど、母親役割は結婚と分ち難い役割となっている。そのため、未婚女性はライフコース選択の際に、結婚、子ども、仕事について、それぞれのプラスとマイナスの価値を総合的に考え、それが結婚に対する態度に影響しているものと考えられる。

## 2. 研究の目的

未婚女性のライフコース選択の規定要因を、仕事・結婚・子どもの価値から検討する。

## 3. 研究の方法

(1) 未婚女性を対象とするインタビュー調査によって、ライフコース選択と関わる要因についての仮説を生成する。

その際、仕事の価値、結婚の価値、子どもの価値についてのインタビューを行い、それらの価値とライフコース選択を結婚意欲として分析を行う。

首都圏では個人主義化が顕著であることから、首都圏のみならず、地方の未婚女性からもデータを収集する。

(2) 生成した仮説について、量的調査による検証を行う。

## 4. 研究成果

**(1)未婚女性における結婚イメージと個人目標と結婚希望時期の関連 —結婚希望時期はどう決まるのか—**

**問題と目的** 本研究では、未婚女性の結婚希望時期が、結婚イメージおよび個人目標とどのように関連するかについての調査を行う。

**方法** 2018年8月から2019年3月に、30歳前後の未婚女性10名を対象に半構造的面接調査を行なった。質問内容は、仕事の状況・子育て観・結婚意欲・交際相手などである。面接により得られたデータは、M-GTA法を援用して分析を行なった。

**結果と考察** 結婚観や子育て観を整理した結果、「幸せで楽しそう」というポジティブなイメージと、「大変なことが多い」というネガティブなイメージに分類された。また仕事やライフワークの状況では、「やりがいや目標」「自分の適性」「ゆとりと忙しさ」「人間関係」「将来の見通し」などのカテゴリーが抽出された。

結婚や子育てのイメージがポジティブな場合には、「母親と同じように結婚して子育てしたい」など結婚意欲が高いが、ネガティブな場合には、「大変そうで、あれはやりたくない」「誰かが育ててくれるなら結婚してもいい」など、結婚意欲が消極的で、結婚イメ

ージと結婚意欲との関 連が示唆された。一方、結婚希望時期については、結婚イメージや結婚意欲だけでは決まらず、仕事やライフワークなど個人目標の状況との相互作用の結果であることが示唆された。仕事の満足度が低く、子育てをライフワークと考える場合には、結婚希望時期が早かった。

## (2)未婚者における結婚イメージ尺度作成の試み

**問題と目的** 未婚女性のライフコース選択を結婚意欲として捉え、その規定要因としての結婚イメージ尺度の作成を行う。未婚女性の特徴を捉えるため、未婚男女を分析対象とする。

**方法** 調査時期：2022年12月に調査会社のモニターを対象にweb調査を行った。

調査対象：全国の25歳から39歳までの未婚男女960名を対象とした。

**結果と考察** 結婚イメージ14項目について因子分析（主因子法・プロマックス回転）を行った。その結果、自由の制約、幸せな生活、性別役割の3因子が抽出された。

Table1 未婚者における結婚イメージ尺度

| 結婚イメージ項目                          | 1     | 2     | 3     |
|-----------------------------------|-------|-------|-------|
| 13. 結婚すると自由にお金を使えなくなるのだからと思う      | .851  | .081  | -.115 |
| 14. 結婚生活は我慢することが多いだろうと思う          | .807  | -.110 | -.042 |
| 5. 子どものことが最優先で自分のことは後回しになるのだからと思う | .784  | .194  | -.065 |
| 3. やりたいことがあっても、自由に行動できなくなりそうな気がする | .710  | -.051 | .061  |
| 11. 親や親戚との関係に気が使いそう               | .667  | -.019 | .041  |
| 6. 結婚生活はいろいろ面倒なことが多そう             | .635  | -.208 | .066  |
| 9. 独身の時と同じようには仕事ができなくなると思う        | .587  | .019  | .098  |
| 4. 結婚生活はいろいろと楽しいことが多そう            | .052  | .812  | .030  |
| 8. 子育ては楽しそう                       | .016  | .710  | -.014 |
| 12. 心からくつろげる場所ができると思う             | -.061 | .708  | .023  |
| 1. 結局、家事や子育ては、主に妻が担うのだからと思う       | -.073 | -.064 | .709  |
| 7. 家計費は夫がほとんど稼ぐのだからと思う            | .032  | .016  | .508  |
| 10. 重要なことは、夫が決めるようになると思う          | -.053 | .042  | .492  |
| 2. 子どもが小さいうちは、母親がそばにいるようになると思う    | .212  | .099  | .488  |
| 因子間相関                             |       |       |       |
| 1                                 | 1.00  | -.21  | .48   |
| 2                                 | -.21  | 1.00  | .04   |
| 3                                 | .48   | .04   | 1.00  |

## (3)未婚者と既婚者における結婚イメージの違い

**問題と目的** 結婚が人生の選択肢となった今日、一定の収入がある層の結婚意欲は、接近回避モデルとして考えることができるのではなかろうか。すなわち、個人が結婚に持つイメージが正の誘因か負の誘因かが、結婚意欲や結婚希望時期と関連すると考えられる。

本研究では、結婚イメージ尺度(永久,2022)に子どもに関する項目を追加し、結婚意欲・結婚希望時期の関連を検討し、未婚者と既婚者の未婚時点の結婚イメージを比較する。

**方法** 2022年12月に、調査会社に委託して全国の25歳から39歳で年収200万円以上の未婚・既婚男女960名を対象にweb調査を行った。結婚イメージ尺度(7件法)、The Marital Scalesから類似項目を削除した20項目(5件法)、結婚意欲(1したくないー5いずれはしたい)、希望時期(するつもりはないー1年以内)、フェイスシートなどである。

**結果と考察** 子どもに関する項目を追加した結婚イメージ尺度項目について因子分析を行った結果、永久(2022)と同じく、自由の制約・幸せな生活・性別分業の3因子が得られた( $\alpha$ は.89, .87, .63)。未婚者のみのデータについて、結婚意欲と結婚希望時期を目的変数、年齢と結婚イメージを説明変数とする重回帰分析を行った結果、いずれも最大の要因は幸せな生活イメージ、次いで自由の制約であった。また、5歳ずつの年齢群別に未婚者と既婚者の未婚時点の結婚イメージを比較したところ、どの年齢群においても、未婚者の方が有意

に自由の制約イメージは高く、幸せな生活イメージは低かった。

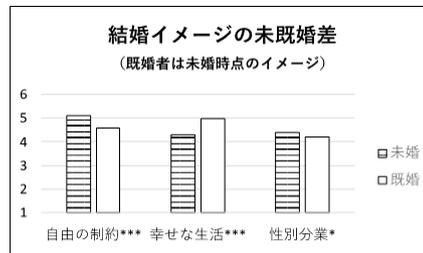
Table2 結婚意欲・結婚希望時期を目的変数とする重回帰分析

|       | 結婚意欲    |     | 結婚希望時期  |     |
|-------|---------|-----|---------|-----|
|       | $\beta$ | $p$ | $\beta$ | $p$ |
| 年齢    | -.083   | *   | -.019   |     |
| 幸せな生活 | .504    | *** | .363    | *** |
| 自由の制約 | -.219   | *** | -.284   | *** |
| 性別分業  | .050    |     | .126    | **  |
| $R^2$ | .316    | *** | .205    | *** |

注：値は標準化係数 $\beta$

Figure1 結婚イメージの未既婚差

(既婚群は未婚時点のイメージ)



以上の結果から、結婚生活イメージ尺度には一定の信頼性と妥当性があり、未婚者においては、本人の結婚イメージが楽観的であるか悲観的であるかが、結婚意欲や結婚時期を左右していると考えられる。

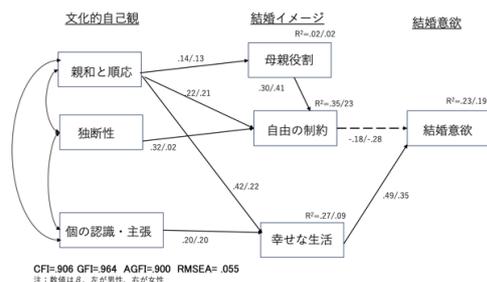
#### (4) 文化的自己観が未婚者における結婚イメージに与える影響 — 自己スキーマとしての文化的自己観と結婚イメージ

**問題と目的** 職業を持ち個人主義的ライフスタイルを身につけた未婚女性は相互独立的自己観が強まる一方、相互協調的自己観が優勢である文化は変化しにくく、結婚生活には依然として関係性志向のイメージを持つため、結婚に幸せな生活イメージを持ちにくく、それが結婚の回避動機となっているのではないだろうか。そこで本研究では、文化的自己観が結婚イメージを媒介に結婚意欲に与える影響の検討を行う。

**方法** 2022年12月に調査会社に委託し25歳から39歳の未既婚男女960名にweb調査を実施した。調査内容は文化的自己観尺度(高田・大木・清家,1996)、結婚イメージ尺度(永久,2022)結婚意欲である。

**結果と考察** 文化的自己観の親和と順応は、未婚者が既婚者より有意に低かった。男女の多母集団分析の結果、親和と順応と個の認識主張が幸せな生活イメージを媒介して結婚意欲に正の影響を与えていた。一方親和と順応は自由の制約を介して結婚意欲低下の要因でもあった。母親役割と独断性は自由の制約を介して結婚意欲を低下させていた。結婚意欲は自由の制約以上に幸せな生活イメージから影響を受けていた。未婚女性の自由の制約イメージは母親役割からの影響が大きく、結婚意欲を左右する要因だった。

Figure2 自己スキーマとしての文化的自己観が結婚イメージと結婚意欲に及ぼす影響



<引用文献>

Markus, H.R., & Kitayama, S. (1991) Culture and the self: Implications for cognition, emotion, and motivation. *Psychological Review*, **98**, 224-253.

Park, S.S., & Rosen, L. A. (2013). The Marital Scales: Measurement of intent, attitudes, and aspects regarding marital relationships. *Journal of Divorce & Remarriage*, **54**, 295-312.

高田利武・大木・清家 (1996) 相互独立的一相互協調的自己観尺度 (改訂版) の作成  
奈良大学紀要, 24, 157-173.

内田由紀子・荻原祐二 (2012) 文化的幸福感—文化心理学的知見と将来への展望—  
心理学評論 55(1), 26-42.

5. 主な発表論文等〔雑誌論文〕(計2件)

①永久ひさ子 2022 未婚者における結婚の条件とアイデンティティ発達および個人主義的家族観の関連 文京学院大学人間学部紀要, 査読有, 23, pp93-104

②永久ひさ子 2023 未婚者における結婚イメージ尺度作成の試み 文京学院大学人間学部紀要, 査読有, 24, pp125-134.

〔学会発表〕(計7件)

①永久ひさ子 2019 30歳前後の未婚女性におけるライフコース選択の要因 日本発達心理学会第30回大会

②永久久子 2019 30歳前後の未婚女性における未婚の理由—「自由や気楽さを失いたくない」の意味に着目して— 日本心理学会第83回大会

③永久ひさ子 2021 未婚男女における「おひとりさま志向」と恋愛への関心—恋愛離れと対人志向性の関連の検討— 日本発達心理学会第31回大会

④永久ひさ子 2022 未婚女性における結婚イメージと個人目標と結婚希望時期の関連—結婚希望時期はどう決まるのか— 日本発達心理学会第33回大会

⑤永久ひさ子 2023 未婚者と既婚者における結婚イメージの違い 日本心理学会第87回大会

⑥永久ひさ子 2024 文化的自己観が未婚者における結婚イメージに与える影響—自己スキーマとしての文化的自己観と結婚イメージ 日本発達心理学会第35回大会

⑦Hisako Nagahisa 2024 Why are Japanese youth reluctant to start families? - The impact of shifts in cultural self-construal on the meaning of marriage among Japanese ,27th Biennial Meeting of the International Society for the Study of Behavioural Development ,

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

|                                       |                       |
|---------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名<br>永久ひさ子                       | 4. 巻<br>24            |
| 2. 論文標題<br>未婚者における結婚イメージ尺度作成の試み       | 5. 発行年<br>2023年       |
| 3. 雑誌名<br>文京学院大学人間学部研究紀要              | 6. 最初と最後の頁<br>123-132 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし         | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>-             |

|  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 著者名<br>永久ひさ子                                  | 4. 巻<br>第23巻         |
| 2. 論文標題<br>未婚者における結婚の条件とアイデンティティ発達および個人主義的家族観の関連 | 5. 発行年<br>2022年      |
| 3. 雑誌名<br>文京学院大学人間学部研究紀要                         | 6. 最初と最後の頁<br>93-104 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                    | 査読の有無<br>有           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）            | 国際共著<br>-            |

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>永久ひさ子                                 |
| 2. 発表標題<br>文化的自己観が30歳前後の未婚者における結婚イメージと結婚意欲に与える影響 |
| 3. 学会等名<br>日本心理学会                                |
| 4. 発表年<br>2022年                                  |

|                                   |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>永久ひさ子                  |
| 2. 発表標題<br>未婚者における結婚イメージ尺度作成のこころみ |
| 3. 学会等名<br>日本発達心理学会               |
| 4. 発表年<br>2023年                   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>永久ひさ子                          |
| 2. 発表標題<br>30歳前後の未婚者における結婚の条件とアイデンティティの関連 |
| 3. 学会等名<br>日本心理学会                         |
| 4. 発表年<br>2021年                           |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>永久ひさ子  |
| 2. 発表標題<br>未婚女性における結婚イメージと個人目標と結婚希望時期の関連－結婚希望時期はどう決まるか－ |
| 3. 学会等名<br>日本発達心理学会                                     |
| 4. 発表年<br>2022年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>永久ひさ子                                     |
| 2. 発表標題<br>30歳前後の未婚女性が結婚相手を判断する際の要因の検討 自己成長と自己保存の重要性 |
| 3. 学会等名<br>日本心理学会第84回大会                              |
| 4. 発表年<br>2020年                                      |

|                                      |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>永久ひさ子                     |
| 2. 発表標題<br>30歳前後の未婚女性におけるライフコース選択の要因 |
| 3. 学会等名<br>日本発達心理学会第30回大会            |
| 4. 発表年<br>2019年                      |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>永久ひさ子  |
| 2. 発表標題<br>30歳前後の未婚女性における未婚の理由についてー「自由や気楽さを失いたくない」の意味に着目してー |
| 3. 学会等名<br>日本心理学会第83回大会                                     |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|                                      |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>永久ひさ子                     |
| 2. 発表標題<br>未婚男女における「おひとりさま志向」と恋愛への関心 |
| 3. 学会等名<br>日本発達心理学会第31回大会            |
| 4. 発表年<br>2020年                      |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Hisako Nagahisa   |
| 2. 発表標題<br>A Study of late marriage factors among unmarried Japanese women |
| 3. 学会等名<br>The 5th World Conference on Women ' S Studies ( 国際学会 )          |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|                                      |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>永久ひさ子                     |
| 2. 発表標題<br>30歳前後の未婚女性におけるライフコース選択の要因 |
| 3. 学会等名<br>日本発達心理学会第30回大会            |
| 4. 発表年<br>2018年～2019年                |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Hisako Nagahisa   |
| 2. 発表標題<br>Why are Japanese youth reluctant to start families? - The impact of shifts in cultural self-construal on the meaning of marriage among Japanese , |
| 3. 学会等名<br>27th Biennial Meeting of the International Society for the Study of Behavioural Development , ( 国際学会 )  |
| 4. 発表年<br>2024年  |

|                                  |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>永久ひさ子                 |
| 2. 発表標題<br>未婚者における接近回避志向と結婚意欲の関連 |
| 3. 学会等名<br>日本心理学会第88回大会          |
| 4. 発表年<br>2024年                  |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)         | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)            | 備考 |
|-------|-----------------------------------|----------------------------------|----|
| 研究分担者 | 伊藤 裕子<br>(ITO YUKO)<br>(50296357) | 文京学院大学・人間学部・非常勤講師<br><br>(32413) | 削除 |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

|         |         |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|